

サヨリ



生態的特徴等

【生態】体は細長く、下あごが長く突き出る。サヨリは日本沿岸各地のほか、台湾、朝鮮半島沿岸まで分布する。一般には沿岸域の表層に分布し大きく移動しないとされるが、水温変化の大きい海域では、夏に北上、冬に南下する季節回遊が知られる。茨城県沖のサヨリは、仙台湾～常磐海域に産卵場をもつローカル群と考えられている。産卵期は春から初夏で、藻場、流れ藻、浮遊物に産卵する。餌は小型の甲殻類や動物プランクトンで、早いものは満1歳で成熟する。寿命は2歳と考えられており、最大40cm程度となる。

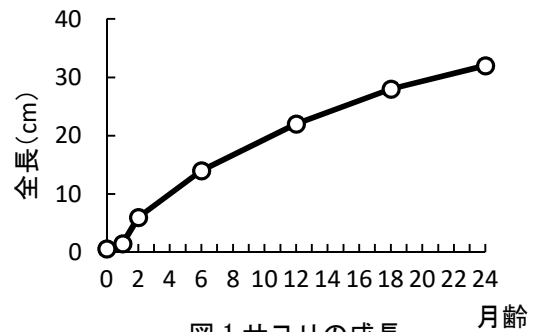


図1 サヨリの成長

【漁法と盛漁期】さより曳網（2そう曳）で漁獲される。漁期は12～5月で、盛漁期は1～3月。茨城県では、平潟、大津、久慈地区の水揚げが多い。

【利用】干物や天ぷらで食されるが、体長が30cmを超える大型のものは「かんぬき」と呼ばれ、刺身、寿司だね用として特に高値で取り引きされる。

近年の来遊資源は低位・横ばい傾向

(漁獲量) 過去には600トを超える年もあったが、近年は50ト前後で推移している(図2)。(水準と動向) 漁獲量は海況に大きく左右されることから、来遊資源として評価した。また、漁期が12～5月であるため、この期間中のCPUE (kg/隻・日) で判断した(図3)。この推移から、H29年の水準は「低位」、過去5年の傾向から、動向は「横ばい」とした。

水準



動向

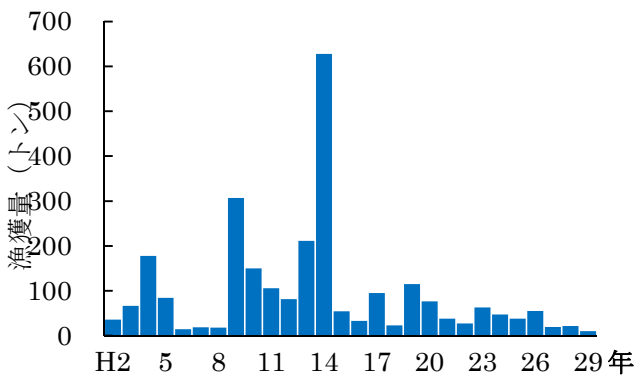
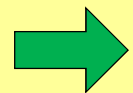


図2 サヨリの漁獲量 (水試システム・属地)

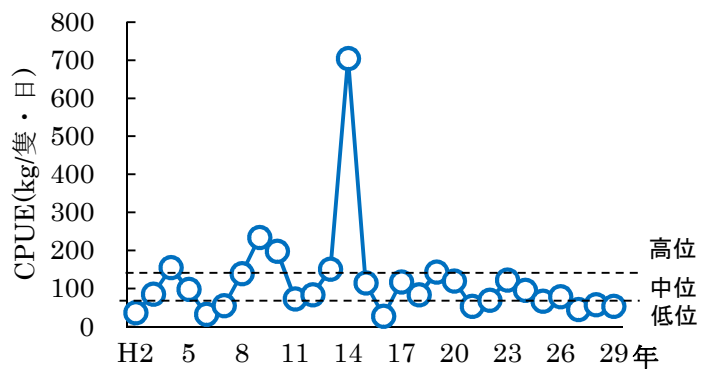


図3 サヨリのCPUE (水試システム・前年12月～5月)

【全国の漁獲動向】

・茨城県以外では、千葉県、石川県、広島県、香川県で漁獲されている。

評価期間：平成28年12～平成29年5月 更新日：平成30年11月1日